



7月14日に「情報モラル」教室を全校で実施しました。

私が中学時代には「情報モラル教室」という授業は全くありませんでした。情報と言えばテレビや新聞などのメディア以外は、家族や友達とのコミュニケーションで得ることができる程度でした。

しかし、今はどうでしょう。ネット社会となり、情報が氾濫しています。読みたくもない、見たくもない情報が、意識せずに飛び込んでくる場合もありますし、匿名

で情報をネット上に流すこともできてしまいます。

そのため、オンラインゲームやSNSでのトラブルが2010年前後から急増し、いまも減らずに問題となっています。

2020年9月には34歳の男性がTikTokで知り合った小学5年の女儿と会い、脅迫やわいせつ行為を繰り返す事件が起きました。また、同時期に横浜の小学4年の女儿がオンラインゲーム「荒野行動」で知り合った38歳の男性に誘拐される事件も起きています。さらに、ツイッターやインスタグラムなどで自らを撮影した画像によって起こるトラブルが小学生まで増えています。それらは警察庁の発表資料からわかります。

ラインなどによる仲間同士のトラブルも絶えません。**書き言葉と話し言葉は違います。**書き言葉で「うん」と書いた(打った)ときに、その「うん」が「了解」の意味なのか、「とりあえず承諾」という意味なのか、それだけではわかりません。読み手によっては「なんで怒っているの?」と思う場合もあります。

話し言葉なら、抑揚や声の大きさなどで伝わりますし、言い間違いをしたのならすぐに言い直せますが、書き言葉はそうはいきません。手元から離れた瞬間に、大きなネット上を泳ぎ始めます。

したがって、読む人の気持ちを考えて、誤解のないように丁寧な言葉を使用する必要があります。

そのような内容を「情報モラル教室」で学習したものの、ほんの50分の内容です。ぜひ、ご家庭でもSNSやゲームのリスクについて話し合ったり、利用する時間を決めたり、お子さんの利用状況を見守ったりしていただきたいです。

「情報モラル」はルールやマナーよりも**自律的要素を必要とする倫理や道徳性が問われます。**子供たちには、「自分の心を守る」「自分を律する自律を大切に」と呼びかけました。

この夏、後悔のない充実した夏に。